

令和8年度（2026年度）第2回環境基本計画推進委員会 議事録

- 1 日 時 令和8年（2026年）7月28日（火）午後2時～午後3時30分
- 2 場 所 501会議室
- 3 出席者 山本 隆明、佐藤 剛彦、安部 浩通、近藤 高史、平井 正吉、新井 宝造、
白羽 圭子、吉村 暁夫、大東 憲二、吉鶴 弥生、龍田 昭一、毛利 まり
子（委員12名、敬称略）
生活環境課長、生活環境課生活環境・環境対策グループ主幹、ゼロカーボン戦
略室統括主任、生活環境課主任2名、リサイクル推進課統括主任、リサイクル
推進課主任1名（事務局7名）
- 4 欠席者 なし
- 5 会議の公開 公開
- 6 傍聴者 0名
- 7 内容

(1) 委員長挨拶

山本委員長より挨拶を行った。

(2) 説明事項

前回会議の議事録について、事務局から資料を用いて説明を行った。委員からの意見等はなし。

(3) 協議事項

ア 令和9年度（2027年度）委員会の進め方（スケジュール）

事務局から資料を用いて説明を行った。委員からの意見なし。

イ 環境基本計画年次報告書（案）

事務局から資料を用いて説明を行い、各部会に分かれ「各環境の柱に対する評価・課題」を検討した。その後、佐藤部会長が生活環境保全・自然共生部会で検討した内容を、安部部会長が気候変動対策・循環型社会部会で検討した内容を報告した。

佐藤部会長の報告内容については、下記のとおり。

【環境の柱5（環境行動）】

・指標の評価として、「ガソリン代高騰などの物価上昇により、環境に配慮する余裕がなくなっている可能性がある」という記述があるが、環境と経済を両立させた持続可能性のある施策を講じていく必要がある。

・施策10「環境意識の向上 市内の人材・活動団体の把握とデータベース化」に

対して、該当する主な取り組みがないことから、大学生、高校生などと連携して改善を図っていくとよい。

【環境の柱2（自然共生）】

- ・「地域の環境面において、生活に支障を感じている人の割合」及び「降下ばいじんの量（市内平均）」の指標の結果が良くなっている。
- ・ハード面の更新だけではなく、ソフト面の充実を図っていくことが重要であり、生物調査を実施するだけではなく、調査結果の活用方法を検討していく必要がある。
- ・施策5「自然と共生するまちの形成 市民が水と親しめる空間の創出」に対して、該当する主な取り組みがないことから、今後、対策を検討していく必要がある。

【環境の柱1（生活環境保全）】

- ・水質及び悪臭は課題が少ないことから、引き続き取組を継続していく。
- ・降下ばいじんは数値の上では改善しているが、実際の体感としては数値ほど改善していないように感じる。太田川駅西地区の開発行為や各事業者の対策などの影響を把握しておき、数値増減を市民に説明できるようにしておく必要がある。

安部部会長の報告内容については、下記のとおり。

【環境の柱5（環境行動）】

- ・「普段から環境に配慮した行動を実践している人の割合」が下がっていることから、環境への配慮に無関心な人へのアプローチとして行政などが実施しているエコスクール・ものづくり道場などの取組を地道に周知していく必要がある。

【環境の柱3（気候変動対策）】

- ・温室効果ガス排出量の削減のため、環境負荷の小さい移動手段であるらんらんバスの利便性の拡充を図ることで、公共交通機関利用者の増加を検討していく必要がある。
- ・再生可能エネルギーや水素エネルギーの導入を多くの方に認識してもらえよう、目に見える形で情報発信をしていく必要がある。

【環境の柱4（循環型社会）】

- ・「ごみ減量、リサイクルに取り組んでいる人の割合」は、40代や50代では、90%以上の方が取り組んでいるが、今後も地道に取組を継続していく必要がある。